

板橋区観光振興ビジョン 2035

《素案》

令和7年9月29日



はじめに

区長挨拶が入ります。

令和 年 月 板橋区長 坂本 健

本ビジョン策定の背景

伝統的な観光

観光を考えるうえで、地域の歴史的背景を踏まえることは不可欠です。

板橋区には古代から現在まで、先人たちが築き上げた歴史的・文化的価値の高い観光資源が多く存在しています。

これらの歴史、文化、自然、景観などの貴重な観光資源を守り続け、価値を磨き上げ、板橋にしかない魅力を区民や来訪者に伝えていきます。

多様化する観光

従来、観光資源として認識されていなかった日常の暮らしや商店街、食といった地域資源に加え、その土地ならではの特色を生かし、新たな資源を創出する地域密着型の観光が注目されています。

これらの地域資源を活用し、名所を訪れるだけでなく、体験や参加を通じて区民と来訪者がともに楽しむことのできる空間を創出していきます。

観光を取り巻く環境の変化

消費行動・価値観・ライフスタイルの多様化

近年、体験や参加を楽しむ活動的なニーズが高まるなど消費行動や人々の価値観、ライフスタイルが多様化しています。

これらの多様な要望に応えるため、特色ある地域資源の磨き上げや新たな魅力の創出、文化・芸術などに触れる機会を提供することが求められています。

地域コミュニティの希薄化

核家族化の進行や都市化、デジタル技術の普及により、直接的な対面での交流機会が減少し、地域コミュニティの希薄化が社会問題となっています。

人とまちのつながりを深める交流や参加・体験ができるような環境づくりが求められています。

DX・AI技術の進化

デジタル技術は、予想をはるかに上回って進化しています。

観光においてもVR/AR技術を活用したコンテンツやアプリの導入、AIを利用した案内や情報発信、口コミやSNSを通じたリアルタイムでの情報収集など来訪者の行動に変化をもたらしています。

これらの技術をうまく活用し、来訪者の利便性を向上させる取組が求められています。

持続可能な社会に対する意識の高まり

持続可能な社会に対する取組が世界的に加速しています。

観光においても、環境への配慮に加え、過去から受け継いだ伝統文化などの保全・未来への継承の取組が求められています。

本ビジョンがめざす板橋区の観光

板橋区における観光は、有名観光地を訪れるのとは違い、身近にある歴史、景観、活気あふれる商店街、区民の温かな人柄ともてなしの精神といった、日常の暮らしに根付いたものです。

伝統的な観光と多様化する観光が調和し、だれもが、普段着のままいつでも、こうした生活文化を楽しむことができる「ライフスタイルツーリズム」が、板橋区における観光のめざすところです。

【基本理念】

ひと まち みどりがつなぐ、 懐かしさと新しさが織りなす “いたばし”

板橋区は、都市化が進む東京23区にありながら、宿場町として栄えた街道文化の歴史と個性的な店舗や活気ある商店街、銭湯やお祭りといった「ひと」や「まち」をつなぐ生活文化が根つき、河川や公園などの豊かな「みどり」も残されていることから、世代を超えて住み続けられるまちとして多くの人々に親しまれています。

板橋区の観光は、伝統ある歴史や文化を大切にしながら、商店街や銭湯、食文化など日々の暮らしに根ざした体験や人との交流を「ライフスタイルツーリズム」として発信していくことをめざすものです。さらに、こうした地域資源に加え、新たな価値を創造することで、まちの魅力をより一層高めていきます。区民にとっては、訪れる人に思わず自慢したくなるまちとして、来訪者にとっては、もう一度訪れたくなるまちとして、懐かしさと新しさが織りなす“いたばし”の魅力を育んでいきます。

【ビジョンを推進する視点】

高める

- 資源の磨き上げ
- 新たな魅力の創出
- 愛着と誇りの醸成

板橋区が保有する資源を掘り起こすとともに、磨き上げや掛け合わせによって新たな魅力を創出し、価値を高めることで、区民の地域に対する愛着と誇りを醸成していきます。

伝える

- 観光人材の育成
- 板橋ストーリーの発信
- デジタル技術の活用

板橋の魅力を語り、発信できる観光人材を育成します。歴史や背景を踏まえた「板橋ストーリー」としてまとめ、区民や来訪者へ幅広く伝えとともに、デジタル技術を活用することで、多くの人に効果的で価値ある情報の発信を展開していきます。

繋げる

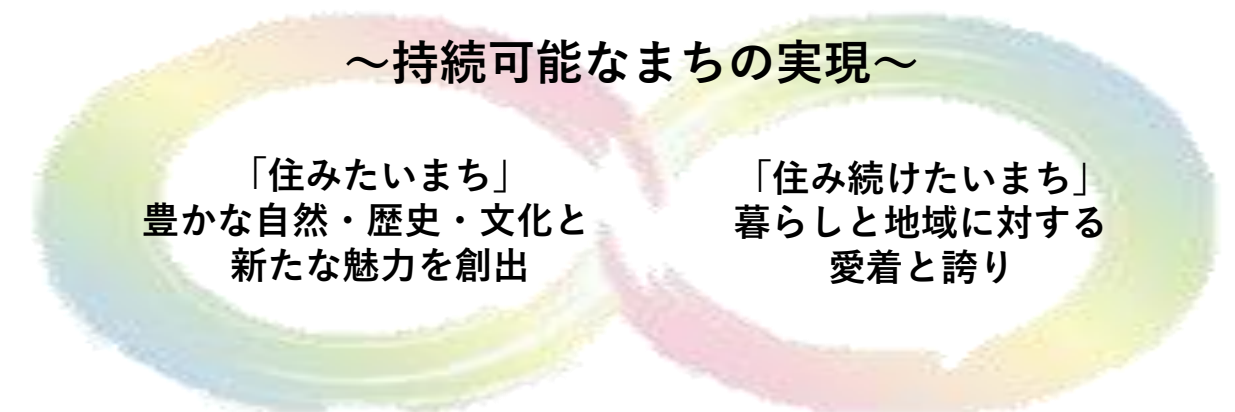
- 次世代への継承
- 交流・参加・体験
- 人・まち・みどりとのふれあい

板橋ならではの歴史・文化・自然を次世代へ繋げていきます。また、まちや水辺といった空間を生かした体験や、食・商店街・銭湯といった日々の暮らしに根付いた交流・ふれあいによって、人と人をつなげる観光施策を展開していきます。

板橋区基本構想・基本計画2035に示す将来像

未来をひらく 緑と文化のかがやくまち“板橋”

【将来像が実現されたまちの姿】



しりたくなる

板橋の歴史や文化、自然、景観に込められた物語や背景を掘り起こし、来訪者の知的好奇心をかき立てよう発信します。

地域のストーリーが学びと好奇心を生み、「もっとしりたい」「自分の目で見てみたい」という思いを引き出します。

いきたくなる

暮らしに根ざした食や商店街などの生活文化を通じて、にぎわいを創出します。また、身近な施設などを活用した日常を味わう観光や四季折々の多彩なイベントを通じて、「いきたくなる」まちをめざします。

目標

たのしくなる

地域資源同士を掛け合わせることで新たな魅力を生み出し、「たのしくなる」空間を演出します。

また、歴史資源や自然資源を活用することで新たな価値を創造し、記憶に残る時間を提供します。

いたくなる

自然と都市が調和した快適な空間の中で、人とまちがつながり、「もう少しここにいたい」と感じられる環境をつくります。

自然や農資源、絵本のまちブランドなど地域の魅力を活かし、暮らす人・訪れる人それぞれが心地よく過ごせるまちをめざします。

しりたくなる

地域のストーリーを探る観光の推進

江戸時代、加賀藩前田家の江戸下屋敷が板橋宿に隣接していたことに由来する金沢市との交流や、幕末の砲術家「高島秋帆」が「高島平」の地名の由来になっているなど、区内には背景を知りたくなる多くの歴史・文化資源があります。

これらの文化資源を徒歩で巡る観光ルートとして整備し、観光案内板等のQRコードによる詳細説明や、多言語化により魅力を広く発信し認知度の向上を図り、文化資源を観光資源として展開していきます。

また、各観光資源が持つ歴史的背景やエピソードをストーリーとして仕立て、観光ボランティアガイド「もてなしたい」による解説を通じて、資源の価値と魅力を効果的に伝えとともに、ARで当時の雰囲気再現するスポットを増やすことで、来訪者に対し記憶に残る体験を提供します。



高島秋帆が徳丸原で西洋式砲術調練を行っている様子「阿蘭陀直伝高島流砲術巻」より



ボランティアガイドによる散策ツアー



伝統文化や文化財の保存・継承・公開

板橋区には、千年以上続く五穀豊穡などを祈願する国の重要無形民俗文化財である「田遊び」をはじめ、神社の神楽殿で舞われる里神楽、村内安全を祈る獅子舞などの無形民俗文化財が残ります。

また、都内に現存する最古級の古民家である旧粕谷家住宅は建築された300年前から当初の場所に残るなど、農村地域の歴史と人々の暮らしを映し出す、多彩な文化財と伝統文化が息づいています。

これらの伝統文化を保存・継承していくために、学校や地域団体と連携して板橋区の歴史や伝統文化を体験しながら学べるワークショップの実施や、旧粕谷家住宅などの歴史的建築物を活用した芸能の開催など、国内外の幅広い世代に向けた魅力ある体験プログラムを展開していきます。



徳丸北野神社田遊び



旧粕谷家住宅

2035年目指す姿

歴史や文化、景観など、板橋固有の魅力ある文化資源が掘り起こされ、「もっと知りたい」「自分の目で見たい」と思えるストーリーや体験プログラムが整っています。また、区民がその魅力を体感し、地域への愛着や誇りが醸成されています。

新たな景観の魅力発信と普及

板橋十景に選ばれている四季折々の美しい風景が楽しめる「松月院」、開花の時期には中板橋付近から加賀付近まで桜が咲き誇る「石神井川の桜並木」、地名の名前の由来となった「板橋」、現在も2基一対で当時の場所に残り、国の史跡に指定されている「志村一里塚」など、四季折々の美しさを備えた景観が数多くあります。

これらの景観について、SNSを活用し、公園、街並み、夜景などのテーマを設定した景観フォトコンテストの開催やカメラ愛好家向けの撮影スポットを巡るフォトウォークイベントの実施など、板橋区の景観の魅力発信と普及に取り組んでいきます。



志村一里塚
江戸時代の旅路の目印として設置された中山道3番目の一里塚



松月院

いきたくなる

2035年目指す姿

板橋の食や商店街、銭湯など、地域に根ざした日常の魅力が観光資源として確立され、「まちの暮らしを体験する」ライフスタイルツーリズムが定着しています。

また、皆が楽しむことができる多彩なイベントや訪れるたびに新たな楽しさを提供する暮らしの身近にある施設など、「いきたくなる」環境が整っています。

食・商店街を通じたにぎわい創出

板橋区には区を代表する食のブランドである「板橋のいっぴん」や長年地元で愛されてきた情緒あふれる商店街、地域の交流の場としての役割も担う銭湯など、地域に根ざした日常の魅力が数多くあります。

これらの魅力を区内外に幅広く伝えるために、区内の大学や企業と連携したプロモーションや冊子、SNSなどの多様な媒体を活用した発信を行います。

また、商店街・銭湯における区民の温かな人柄ともてなしの精神による交流を通じて、来訪者が日常の生活文化に触れ、地域の魅力を体験できる環境を整えることで、にぎわいの創出を図ります。



商店街



銭湯



四季折々の多彩なイベントの実施

板橋区では都内最大の尺五寸玉を打ち上げる「いたばし花火大会」、みこしや踊り、物産展など地域の活気と文化を楽しめる「板橋区民まつり」、地元の農産物を堪能できる「板橋農業まつり」、多くのランナーに親しまれている「板橋Cityマラソン」の伝統ある4大イベントに加え、区内有数の桜の名所で幻想的な夜桜を演出する「石神井川の桜のライトアップ」などを季節に合わせて実施しています。

これまで培ってきた伝統を継承しつつも、デジタル技術の活用など時代に即した新たな要素を取り入れ、磨き上げることで、区民や来訪者が「いきたくなる」イベントの実施に取り組んでいきます。



板橋Cityマラソン



板橋区民まつり

暮らしの身近にある施設の来訪促進

BELCA賞を受賞した建築としても注目される板橋区立美術館、いたばしボローニャ絵本館やカフェを併設した中央図書館、熱帯雨林を再現した展示やAR体験が楽しめる熱帯環境植物館、動物とのふれあい体験ができることも動物園など、板橋区内には多彩な公共施設があります。

これらの暮らしの身近にある施設への来訪を促進し、文化・学び・自然に触れる機会を増やします。

また、施設を単独で楽しむだけでなく、複数の施設を巡りたくなるような、スタンプラリーや季節などの共通テーマを設定した連携企画を展開し、区内外に広く発信します。



熱帯環境植物館



板橋区立美術館



こども動物園

たのしくなる

2035年目指す姿

子どもから大人まで楽しめる新たな観光コンテンツが創造されています。
また、地域資源を掛け合わせた板橋でしか体験できないイベントが展開され、多くの人で活気に満ちています。

過去と未来が交差する新たな価値の創造

令和11年度オープン予定の「板橋区史跡公園（仮称）」と「（仮称）産業ミュージアム」は、都内初の試みとして、近代化・産業遺産の保存と活用により、新たな価値を創出します。このエリアは、石神井川や加賀公園の豊かな自然に触れられるだけでなく、加賀の歴史を学んだり、ものづくり技術の体験や来場者参加型の最先端技術の実証実験を行うなど、過去と未来が交差する板橋の新たなシンボルとなります。

産業ミュージアムでは、区産業の歩みと日本の産業発展や科学技術の近代化に貢献してきた旧理化学研究所板橋分所の歴史を伝えていくとともに、探求と研究のバトンを未来へつないでいくための拠点となることを目指します。

調整中



水辺空間を活用したにぎわいの創出

荒川の河川空間と豊富なみどりを活かした「かわまちづくり」では、にぎわい創出につながる水辺空間を形成します。

区のブランドとなる充実したコンテンツの創出やスポーツ利用者をはじめとした利用者の利便性を向上させるとともに、みどりに恵まれた河川環境を活かすなど、荒川河川敷の魅力及び機能向上をめざします。

新たなスポーツ機能の拡充や屋外体験レクリエーションによるにぎわいの核となる拠点等の整備、広大なオープンスペースを活用した大小様々なイベント、来訪者の憩いの場の提供など活気とにぎわいに満ちた空間を創出します。



自然体験型アーバンリバーパーク

調整中

地域資源の掛け合わせによる新たな魅力の創出

多様な地域資源を掛け合わせることで、板橋区の特徴をいかした新たな魅力を創出します。河川公園での音楽フェスティバル、町中華とまち歩きグルメ散策ツアー、絵本文化とイタリア・ボローニャの食を楽しむイベント、史跡公園や旧粕谷家住宅といった文化財施設を活用したイベントなどの企画を展開します。



イタリア・ボローニャ国際絵本原画展



板橋（板橋十景）
板橋の地名の由来になった橋



まち中華



板橋区史跡公園（仮称）・産業ミュージアム（仮称）

いたくなる

2035年目指す姿

豊かな自然や「農」に触れることのできる環境が整備され、日々の暮らしの中で心地良さと安らぎを感じることができるといえるまちが実現しています。

また、あらゆる世代の人が交流できるまちづくりが展開されるとともに、絵本のまちブランドの浸透により文化的な魅力あるまちとなっています。

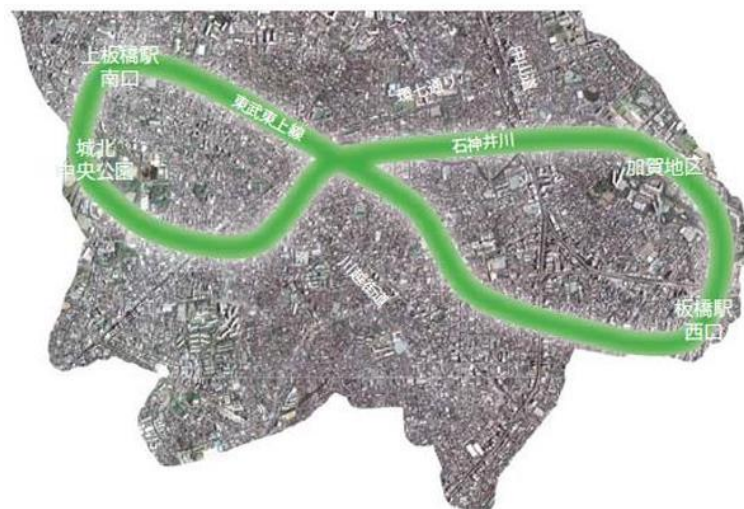
まちづくりをいかした魅力的な空間の創造

人中心の駅前空間と2つの再開発が織りなす新たな板橋の玄関口「板橋駅西口」、緑豊かな駅前空間が出迎える新たな公園都市「上板橋駅南口」、持続可能な都市へと転換する次世代のまち「高島平駅周辺」など各地で魅力あふれるまちづくりが進展しています。

情報発信拠点として様々な魅力を発信していくとともに、あらゆる世代の人々が気軽に交流・参加・体験できる新たなエリアを創造するなど、地域への愛着やつなかりを育む場として、まちの魅力を高めていきます。



板橋駅西口（イメージ）



グリーンループ



「自然空間」や「農」の保全と活用

板橋区には、約300か所の公園をはじめ、緑豊かな「自然空間」と、長い歴史の中で培われた伝統や技術に支えられた「農」の資源があります。

これらを活用・整備することで、日々の暮らしにやすらぎと潤いをもたらし、誰もが心地よく過ごせる環境づくりを進めます。

「自然空間」の活用では、河川沿いや公園での自然観察会、四季折々の景色を楽しむ散策イベントなどを行い、自然を身近に感じてもらう機会を増やします。

「農」の活用では、板橋の農業を次世代へつなぐため、農業体験や区民農園、地元農産物の販売会を開催します。こうして「農」を未来へ継承し、「農」の恵みを五感で味わいながら、地域の歴史とともに守り育てる取り組みを推進します。



農体験（イメージ）



高島平プロムナード

絵本のまち板橋の取組推進

板橋区は、友好都市であるイタリア・ボローニャ市との交流や、区内に多く集まる印刷産業の強みを活かし、「絵本のまち板橋」ブランドを推進しています。

この「絵本のまち板橋」ブランドを活用し、子育て世代や若年層へ絵本の魅力を積極的に発信します。

地域の印刷・製本業と連携し、来訪者自身が主人公となるオリジナル絵本を制作できるプログラムや絵本風観光ガイドマップの制作、親子で楽しめる読み聞かせなどを日常的に開催し、絵本の世界を身近に感じられる機会をつくり出します。これにより、まち全体が絵本の世界に入り込んだような空間づくりを推進し、訪れる人の心を惹きつけます。こうした取組を通じて、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟をめざし、ブランド力のさらなる向上を図ります。



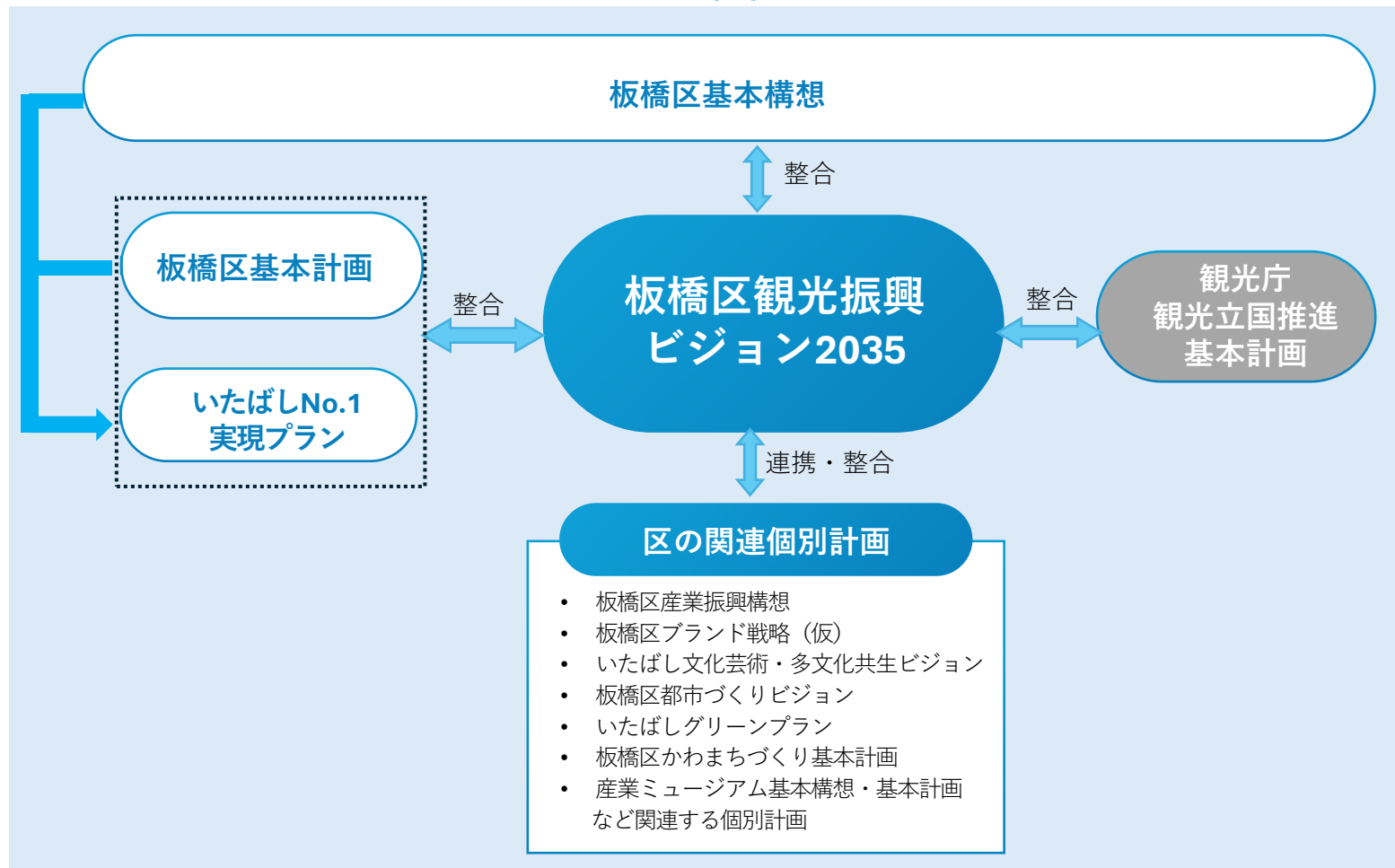
絵本のまちひろば



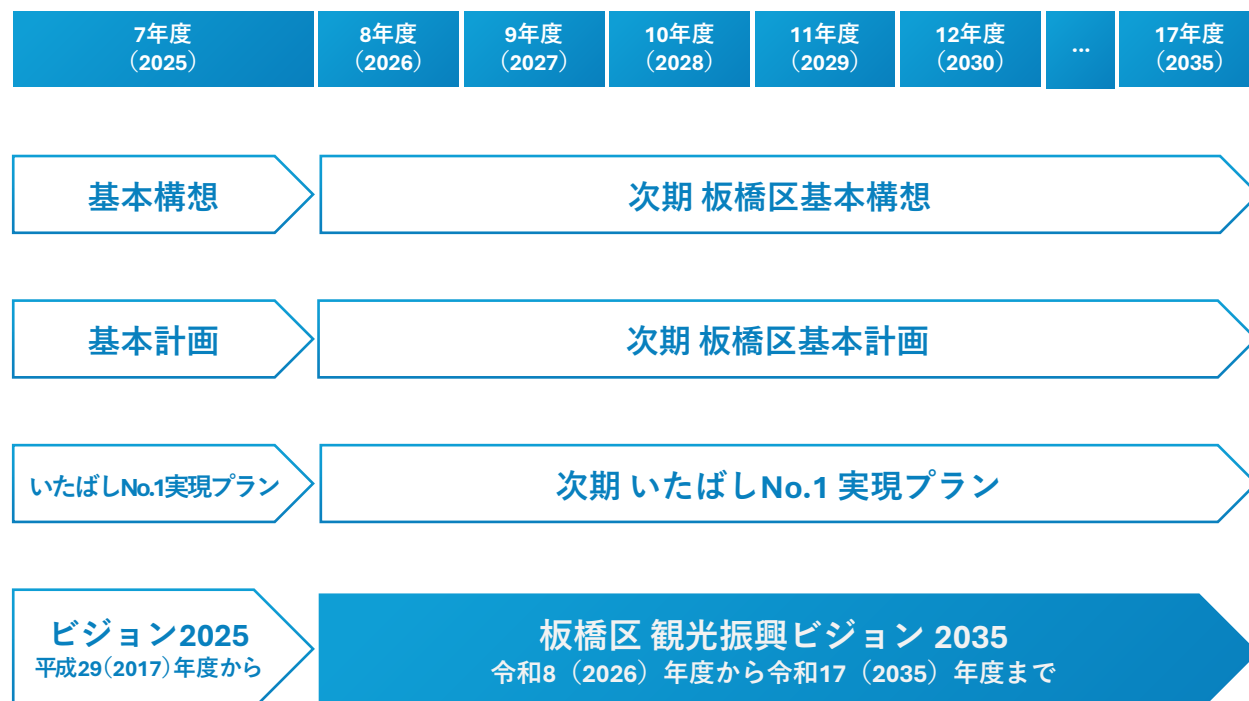
絵本づくり体験

ビジョンの位置づけ、計画期間

ビジョンの位置づけ

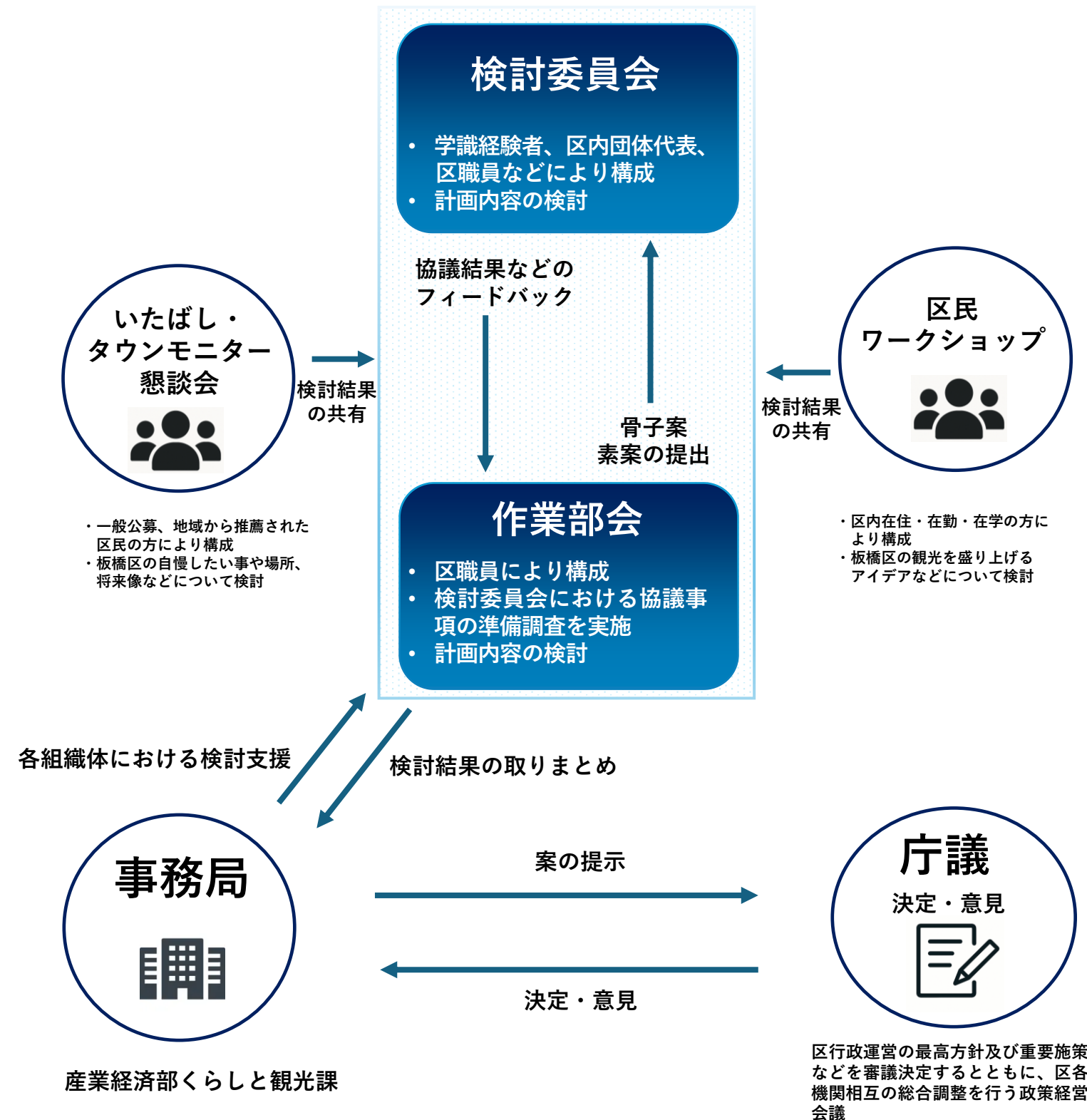


計画期間



策定体制図

観光振興による魅力あるまちづくりを推進し、板橋区のめざす将来像や取組の方向性を示す観光ビジョンの策定に関わる検討を実施



板橋区観光振興ビジョン2035策定検討委員会設置要綱

(令和6年9月25日区長決定)
(令和7年4月1日 一部改正)

(設置目的)

第1条 観光の振興による魅力あるまちづくりを推進し、板橋区のめざす観光の将来像や取組みの方向性を示す観光ビジョンの策定を目的として、板橋区観光振興ビジョン2035策定検討委員会（以下「検討委員会」という）を設置する。

(組織)

第2条 検討委員会は、学識経験者、区内団体代表、区職員、その他区長が適当と認めた者のうちから、区長が委嘱または任命する委員16人以内をもって組織する。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出し、委員長は、検討委員会を主宰する。

3 第1項に掲げる者のほか、委員長は、必要と認める者を会議に出席させることができる。

(作業部会)

第3条 検討委員会における協議事項を準備調査するため、作業部会を置く。

2 作業部会は部会長、副部会長及び部会員をもって構成し、構成員は別表のとおりとする。

3 部会長は産業経済部長、副部会長はくらしと観光課長とし、部会長は、作業部会を主宰する。

(所掌事項)

第4条 検討委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

(1) 板橋区観光振興ビジョン2035に関する事項

(2) その他委員長が必要と認める事項

(検討委員会の運営)

第5条 検討委員会は、委員長の招集により開催する。

2 委員長に事故があるとき又は欠けたときは、副委員長がその職務を代理する。

3 検討委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、開催することができない。

4 委員長は検討委員会が必要であると認める事項について、検討委員会の委員以外の者を会議に出席させ、報告を求め、又は意見を聴くことができる。

5 委員長が、急を要すると認めたとき又は検討委員会の会議を開くことができないと認めたときは、各委員との協議をもって、会議に代えることができる。

(作業部会の運営)

第6条 前条の規定は、作業部会の運営について準用する。この場合において、これらの規定中「検討委員会」とあるのは「作業部会」と、「委員長」とあるのは「部会長」と読み替えるものとする。

(庶務)

第7条 検討委員会及び作業部会の庶務は、産業経済部くらしと観光課が行う。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

付 則

1 この要綱は、令和6年9月25日から施行する。

2 この要綱は、板橋区観光振興ビジョン2035の策定日にその効力を失う。

付 則

1 この要綱は、令和7年4月1日から施行する。

検討委員会委員名簿・作業部会部会員名簿

【検討委員会委員名簿】

役職	氏名	所属など
委員長	安島 博幸	立教大学名誉教授
副委員長	中野 達哉	駒澤大学文学部教授
委員	武部 浩子	駐日欧州連合代表部広報部 文化担当(2023年9月まで)
		ブリティッシュ・カウンシル アーツ・プロジェクト・マネージャー(2023年9月～)
		松下 耕 作曲家、指揮者、東京国際合唱機構代表理事
		宮口 直人 立命館大学大学院経営管理研究科教授
		渡辺 治 株式会社渡辺治建築都市設計事務所所長
		高田 美種 板橋区町会連合会副会長
		島田 理香 一般社団法人板橋産業連合会理事
		高橋 圭子 板橋区商店街連合会副会長
		別府 明雄 板橋区観光協会会長
		藤咲 億桜 板橋区文化団体連合会広報部長
		伊東 海 東京商工会議所板橋支部事務局長
		篠田 聡 政策経営部長
	家田 彩子	区民文化部長
		産業経済部長

【作業部会部会員名簿】

役職	所属
部会長	産業経済部長
副部会長	産業経済部 くらしと観光課長
部会員	政策経営部 政策企画課長
部会員	政策経営部 広聴広報課長
部会員	政策経営部 ブランド戦略担当課長
部会員	総務部 男女社会参画課長
部会員	区民文化部 地域振興課長
部会員	区民文化部 文化・国際交流課長
部会員	区民文化部 スポーツ振興課長
部会員	産業経済部 産業振興課長
部会員	産業経済部 赤塚支所長
部会員	健康生きがい部 長寿社会推進課長
部会員	福祉部 障がい政策課長
部会員	子ども家庭部 子ども政策課長
部会員	資源環境部 環境政策課長
部会員	都市整備部 都市計画課長
部会員	まちづくり推進室 まちづくり調整課長
部会員	土木部 みどりと公園課長
部会員	土木部 かわまちづくり計画担当課長
部会員	教育委員会事務局 生涯学習課長
部会員	教育委員会事務局 中央図書館長
部会員	教育委員会事務局 史跡公園担当課長
	※第3回作業部会から

調整中

開催日		会議名称	主な議題
令和6年	8月6日	庁議	・策定方針
	8月28日	区民環境委員会	・策定方針
	10月30日	第1回作業部会	・策定方針 ・各種調査結果の報告 ・ビジョン2025の施策評価 ・基本理念と目標について
	12月12日	第1回検討委員会	・策定方針 ・ビジョン2025の施策評価 ・策定に向けたテーマと課題
令和7年	1月15日	第2回作業部会	・骨子案
	2月18日	第2回検討委員会	・骨子案
	3月26日	庁議	・骨子案
	4月16日	区民環境委員会	・骨子案
	6月9日	第3回検討委員会	・素案
	9月5日～9月12日	第3回作業部会	・素案 ・資料編
	9月29日	第4回検討委員会	・素案 ・資料編
	10月21日	庁議	・素案 ・資料編
	11月5日	区民環境委員会	・素案 ・資料編
	12月	第4回作業部会	・原案 ・資料編
	12月	第5回検討委員会	・原案 ・資料編
令和8年	1月20日	庁議	・原案 ・資料編
	2月16日	区民環境委員会	・原案 ・資料編